

6- (2) ソデイカ (赤いか) の資源動態調査

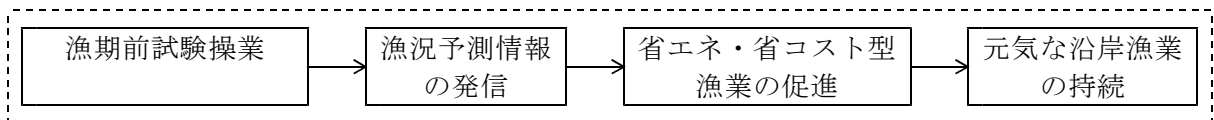
①担当：太田武行（増殖技術室）

②実施期間：H5 年度～（平成 23 年度予算額：沿岸漁業重要資源調査 8,699 千円うち赤いかに関する予算額 113 千円）

③目的・意義・目標設定：

沿岸漁業の重要対象種（底魚類・浮魚類等）の資源動向と漁獲実態に関する調査を行い、漁業者への資源管理方策の提言及び省エネ・省コスト型の漁業経営を促進するための情報発信を行う。

④事業展開フロー



⑤取り組みの成果

●小課題－1：赤いか漁期前試験操業

(1) 目的

近年、本県の夏季～冬季の沿岸漁業を支える重要な資源となっているソデイカについては、その生態学的知見や資源学的知見は非常に少なかった。しかし、H 16 ～ 18 年度に鳥取県、兵庫県、近畿大学、九州大学、水産大学校、日本海区水産研究所との共同研究が実施され、本種の基礎生態に関する情報が収集された。本事業はこれまでに得られた情報と漁期前試験操業によりソデイカの漁況予測情報を発信する。

(2) 方法

- ・鳥取県漁協賀露本所所属の組合員の漁船を 2 隻用船し、H23 年 8 月 29 日に試験操業を実施した。試験操業は、樽流しで行い、A 船（沖側）は 36 樽、B 船（岸側）は 30 樽を使用
- ・試験操業場所は、賀露沖水深 130 ～ 225m（北緯 35° 41.319 ～ 35°44.075, 東経 134° 9.992 ～ 134° 10.920）であった。

(3) 結果

- ・H23 年の漁獲量・金額は、14 トン、13 百万円で H22 年の 59 トン、30 百万円から H21 年（186 トン、79 百万円）から 2 年連続で大幅に減少した（図1）。
- ・H23 年は H22 年と同様に 8,9 月水揚げも極僅かで、また、漁獲物組成は昨年同時期に比べると小型であったことから、初期の来遊群の加入が昨年以上に不調だったことが示唆された（図2）。
- ・近年 8 月には試験操業で来遊が確認されていたが、H22, 23 年の試験操業では、釣獲はなかった。

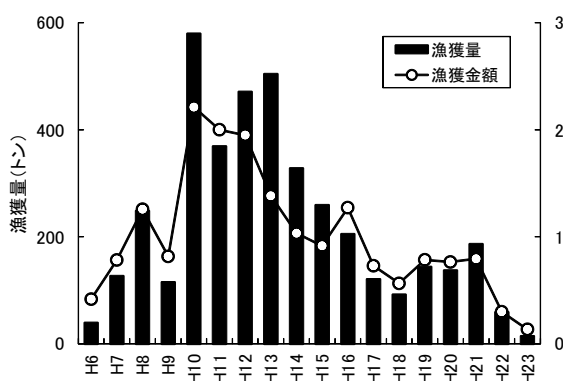


図1 鳥取県のソデイカの漁獲量と金額の推移

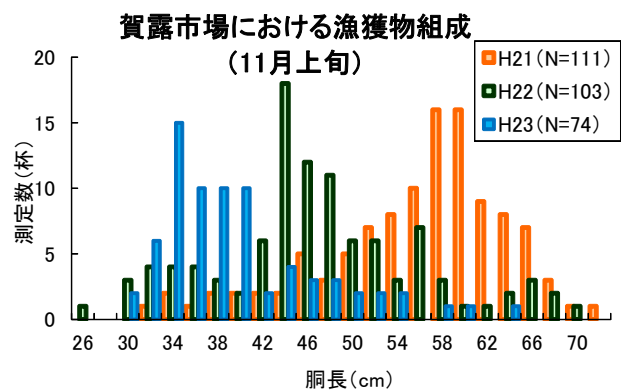


図2 賀露地方卸売市場における11月中旬のソデイカの胴長組成

(4) 考察

今期の漁獲量は、図3のとおり15トンと予測をしており、実際も14トンと非常に少ない結果となった(図3)。この漁獲量の不漁は、H23年前半の低水温の影響により、漁獲の中心である早期来遊群(対馬海峡を6~7月に通過する群)が少なかったため、ソデイカの来遊量は少なく、漁期が遅れ、サイズも小さかったため、漁獲量が昨年と比べ大幅に減少したと考察された。その他にも、ソデイカの餌であるスルメイカの漁場が夏期に山陰沖に形成されなかったことも原因のひとつとして考えられる。

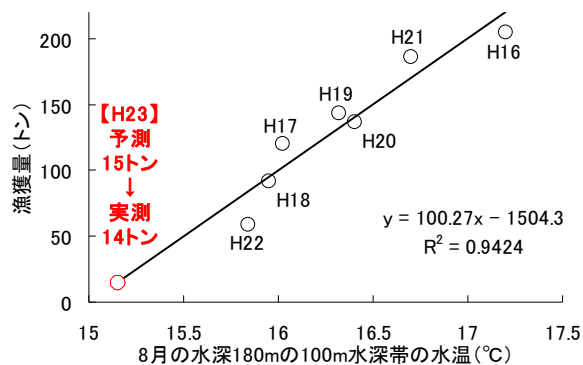


図3 鳥取県のソデイカの漁獲量と鳥取県中部の8月の水深180m地点の深度100m水温

(5) 残された問題点及び課題

漁場が沖合であることもあり、漁況予測を行うことは、沿岸漁業者の省エネ・省コスト型漁業への促進に必要な情報であり、引き続き調査が必要である。